



ピント&ポラック、本格始動

Inbal Pinto & Avshalom Pollak

地中海を望む真夏のテルアビブ、国立オペラ座スタジオ。
11月のさいたま世界初演に向け、
インバル・ピントとアヴシャロム・ポラックの新作リハーサルが本格始動した。
創作とは「旅」のようなもの、と語る2人。
日本人ダンサー大植、森山も加わって、ますます刺激的な旅になりそうな予感がする。



本格始動

— 現地レポート

© Eyal Landesman

— 宮沢賢治からはじまった旅

ポラック：まず、宮沢賢治を読み、情報を集めるところから始めました。賢治の世界はとても豊かですが、そのなかで私たちの世界に通じるものを見つけられたと思います。特に『銀河鉄道の夜』での2人の少年の関係に触発されて、人間関係や友情、つながりといった問題を扱おうとしています。現時点で作品のイメージを言葉にするのは難しい。音楽も動きもセットも、いくらでも変わっていく可能性があります。

ピント：私たちがやっていることは、宮沢賢治の作品と同じように「旅」なのです。宮沢賢治は読者を旅へと誘いますが、私たちもクリエイターとして「創作」という旅に出るのです。旅の途中には驚くような出来事が起きるかもしれない。私たちのために用意された何かがあるはず。

ピント：リハーサルでは「壊れた魂」「壊れた形」について研究しています。「壊れた魂」には何か支えとなるものが必要です。そこで、私たちはお互いにとっての「背骨」になります。ひとりが倒れると、もうひとりがその背骨、あるいは支柱になって支えてあげる。あるいはモノのように吊るされたり寄りかかられたり引っぱられたり、他の力に操られたり利用されたり…。

ポラック：これは宮沢賢治とも非常に関連性のあるテーマです。人よりもむしろモノの中にある魂。人間もまたモノになろうとし、

内に魂をもつ。それら互いの関係性を身体の動きを通して発見していきたい。

— 出会いと交換

ポラック：開次とは以前にも一緒に仕事をしています。初めて誰かと仕事をするということは、未知の領域に足を踏み入れ、変化するということ。(森山、大植と)5日間過ごしてみて、とてもいい変化を感じています。開次も真太郎も素晴らしいダンサーで、際だった個性の持ち主。新しい精神とエネルギー、新しいものを創ろうというエネルギーをもたらしてくれます。私たちになかったものを2人から受け取り、2人にはこれまでやったことのないことをやってもらう。交換なのです。

ピント：真太郎とは初めてですが、とてもオープンな状態で来てくれましたし、しかも教わることも多い。カンパニーのダンサーも、彼のダンスから学んでいます。

ポラック：創作は毎回違うもので、旅であり、リスクです。自分がどこに向かっているかはわからない。だから、観客の皆さんにも真っ新の状態で見たい。私たちが一緒に旅に出るようにね。

■国立オペラ座カフェテリアにて取材

インバルの作品では「プーベーズ」を観ましたが、カラーテレビのような印象。イメージが至近距離で次々に飛び出すような。僕は「白黒」なんです(笑)、じわじわと何かを伝える…。前作の「シェーカー」にはその気配があり、今回はさらに「白黒」の割合が大きくなって欲しい…。彼等の「変わり目」に立ち会える事、(開次君と僕とは)対極なのに対極ゆえにつながれる事、僕の存在が他のメンバーを通して確認できる事、いろんなコトコトで共有しあえる部分が作品の中で見えるといいですね。

大植真太郎



森山開次

自分とは明らかに違う文化、言葉など違いを楽しんでいます。(リハーサルは)インプロで皆と身体をあわせてコミュニケーションを深めるところから。インバルはいつも笑っていて、アヴシャロムは動物のようにじっと見ている…その構図が面白いですね。インバルも僕も「作る」ことが好きなんです。身体言語だけでなく、衣裳を作ったり絵を描いたりするなかでダンスがあるという感覚が似ている。違う自分を見付けたいという期待が一番大きいですね。インバルには僕を「使い古して」欲しい。観客の皆さんには、つながりの不思議感を味わって欲しいですね。

Profile



インバル・ピント&アヴシャロム・ポラック

インバル・ピント(右)とアヴシャロム・ポラック(左)は、イスラエルを代表するコンテンポラリーダンスの振付家・演出家。インバル・ピント・カンパニーを率い、『オイスター』(99年)、『プーベーズ』(02年)等、革新的で想像力豊かな傑作を発表し続け、世界でもトップクラスの人気を集めている。一昨年の来日公演は、NHK教育「芸術劇場」でも放送され、大きな話題を呼んだ。インバル・ピントは、グラフィック・デザインを学んだ後、パットシェパ舞踊団に参加し、ダンサー・振付家として活躍。92年にアヴシャロム・ポラックと出会い、94年カンパニーを結成。『Wrapped』(98年)で、ベッシー賞を受賞。カンパニーとしての活動以外にも、オペラや演劇の振付も行っている。アヴシャロム・ポラックは、俳優として数多くの映画やテレビに出演するとともに、シェイクスピアやチャーホフの舞台にも出演。インバル・ピントとカンパニーを結成して以来、全ての作品を共同で創作している。



大植真太郎 (おおうえ しんたろう)

1992年より渡欧し、ハンブルク・バレエ団、ネザール・ダンス・シアター、クルベリー・バレエを経て現在フリー。スウェーデン国立オペラ、クルベリー・バレエ、Noism06等に振付、ダンサー・振付家として国境を超えて活躍している。『del a』(05年)でハノーファー国際振付コンペティションにて最優秀賞受賞。ノルディック・グランプリにて最優秀賞ならびにオーディエンス賞を受賞。



森山開次 (もりやま かいじ)

しなやかながら強靱で、空間を切り裂くような独特の表現に定評があり、2001年エディンバラ・フェスティバルにて「今年最も才能あるダンサーの1人」と評される。神社境内での公演、能とのコラボレーションなど実験的な活動を国内外で展開。05年ソロ作品『KATANA』で「驚異のダンサーによる驚くべきダンス」(ニューヨーク・タイムズ紙)と評され、07年6月にはヴェネチア・ビエンナーレにて新作発表など躍進を続ける。映画『茶の味』、NHK『からだであそぼ』出演等幅広い分野での身体表現に積極的に取り組んでいる。

●●●● DANCE ●●●●

国際共同製作 インバル・ピント・カンパニー 新作2007(世界初演)

【日時】11月9日(金) 開演 19:30、10日(土) 開演 15:00
11日(日) 開演 15:00

※9日の公演終了後、インバル・ピントとアヴシャロム・ポラックによるポスト・パフォーマンス・トーク(talk・talk・talk 第9回)を行います。

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

【演目】新作2007(世界初演)

【振付・演出・衣裳デザイン・舞台美術デザイン】インバル・ピント&アヴシャロム・ポラック

【出演】インバル・ピント・カンパニー(10名) 大植真太郎 森山開次

【チケット(税込)】好評発売中

一般:S席6,000円/A席4,000円/学生A席2,500円

メンバーズ:S席5,400円/A席3,600円

●●●● EXHIBITION ●●●●

インバル・ピント・カンパニー スケッチと写真展

【日時】開催中 9:00~22:00 休館日を除く

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 ガレリア 入場無料